

# みどりの風

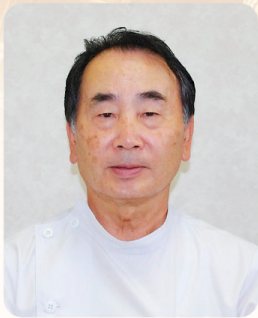


医療法人 みどり会 枚方市藤阪中町3番20号 ☎072-868-2071  
 社会福祉法人 松樹会 枚方市交北2丁目10番1号 ☎072-898-2197  
 URL <http://midori.jp.org/> E-mail [midorii@io.ocn.ne.jp](mailto:midorii@io.ocn.ne.jp)

編集責任者：理事長 中村 猛  
 編集：季刊誌発行委員会

## 第26号御挨拶

理事長 中村 猛



皆さんこんにちは、今夏の残暑は9月半ばになっても衰えることなく厳しい暑さが続きましたが、秋分の日も過ぎ、やっと朝・夕がしのぎやすくなりました。待望の秋が到来したと実感しております。毎日、毎日の疲れが翌日に残らないようにしたいものです。

9月11日は東日本大震災が発生してはや半年経ちました。

地震・津波・原発事故と天災・人災がからみ合い、空前の大惨事となり、なお被災地の瓦礫の山の撤去が始まったばかりで、未来の防衛対策を踏まえたインフラ計画はなお描けていない状況です。将来へ向けて早急の復旧・復興のビジョンを作成してもらいたいものです。

新たに発足した野田内閣は所信演説で最重要課題として、この国難をのりきる号令をされておられます。日本の実力が試される時期と思われまします。

又、台風12号も紀伊半島を中心に風水害で猛威をふるい大きな傷跡を残しました。あらためて大自然への猛威と我々人間の驕ることなき畏敬の念を感じずにはいられません。

又、9月11日はニューヨークの同時多発テロが勃発してテロとの戦いがスタートして10年目となりました。世界

各国で、なお心に深く刻まれた哀しみの人々の追悼式がテレビで放映されております。

9月9日の救急の日とその救急週間に各地の団体の救急への取り組みの催しが行なわれております。

災害だけでなく、日常の救急医療に対して私達医療機関は如何に最良の受け皿となって、救命・救急治療を施していくか、これは永遠に努力して積み上げていく課題であります。

スタッフの養成、チームワークの結集、情報の共有化、等々、我々医療人の責務を新らためて認識してその向上に努めてまいりたいと思います。

先日、知人を訪ねて高野山に行ってきました。あの台風12号の水害で紀の川にかかる南海電車鉄橋は破損され、継ぎの臨時バスでなんとか極楽橋からケーブルで高野山にたどり着く事が出来ました。緑の大樹に囲まれた澄みわたった冷気の中、奥の院・金剛峯寺等の参拝をし、精進料理をごちそうになり一泊して、再び大阪のコンクリートジャングルに帰ってきました。自然との共生、人生と来世への心のあり方と信仰等、色々、あらためて考えさせられる旅でした。

さあ、これからの芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋・・・をリフレッシュしてチャレンジ、充電してまいりたいと思っております。

## 医療法人 みどり会、社会福祉法人 松樹会 平成22年度年報発行

医療法人みどり会（中村病院、中村記念病院、なごみの里、枚方市地域包括支援センターみどり）、社会福祉法人松樹会の5誌の年報発行も5年目となります。

毎年、年報を作成するにあたり、様々な出来事を整理しながら、検討課題や反省すべき点を始めとした改善点の見直しを行い、次年度に続く足掛かりとしております。

ここ数年での診療体制、看護体制をはじめ、医療・福祉機能も着実に充実してきているという実感もあります。今後ソフト・ハード面での病院機能の充実を図り、サービスの充実により地域の皆様に選ばれる病院となり、そのような変化が今後の年報に反映されるように、日々努力して参りたいと思いますので、今後とも御指導賜りますようお願い申し上げます。

（記：本部企画 松田）



## 就任いたしました

消化器内科医師 新宅 雅子



はじめまして。7月からお世話になっております。今まではずっと非常勤でそのほとんどが内視鏡検査の仕事をしておりました。

中村病院には胃カメラ検査が苦手な人でも気楽に受けられる直径約5mmの経鼻内視鏡と、消化管粘膜表面の病変を見つけ出すのに有用なNB-Iシステムがあります。さらにもっと

薬にお受けになりたい方は、眠っている間に検査を受ける

こともできます。無理なく内視鏡検査を受けていただきまして、一つでも多くの早期がんを見つけ、生活向上のお役に立ちたいと思っております。

また、中村病院の特徴の一つであります多くの施設の往診業務をさせていただいております。初めての仕事ですが、ようやく慣れてきまして約100人の多様な入居者の方々の現状を把握しはじめています。入居者の皆様とご家族、そして休むことなく介護に大変なご苦勞をなさっておられるスタッフの皆様のお手伝いができますよう努めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 中村記念病院

## 真のリハビリテーションの実現をめざして

リハビリテーション科医長 塚本 芳久



このたび8月より勤務することとなりました。滋賀県大津市出身で昭和60年に岡山県の川崎医科大学を卒業し、直ちに母校のリハビリテーション医学教室に入局し、以来リハビリテーション一筋に携わって参りました。6年前、縁あって関西に戻って参りまして、現在に至っています。

大学医局を出て思い知らされたことは、我が国ではリハビリテーション医学の専門性が未だ十分に周知されていないことです。通常の世間一般におけるリハビリに対する理解は、後療法という位置づけで、病気・ケガの後遺症や廃用状態に対して、ベッドから起きて運動をして身体を鍛え直すことで対象者の能力を高め、再び職場や家庭に復帰するというものです。つまり、がんばって汗と涙で障害を克服するというイメージです。それに付随して物理療法や各種訓練技法や機器あるいは家庭・職場環境の整備があるという理解です。時々、画期的な訓練法や機器が開発されたとしてマスコミを賑わすことがあります（最近もNHKで放映されたそうです）が、いずれにしても表面的な理解や誤解に基づくものです。

リハビリテーション医学は、予防医学、治療医学に対して第三の医学として峻別されるものです。リハビリテーションにおける人間観とは、「人は内側からしか変わらない」というものです。治療医学（内科や外科といった臨床各科）では

主に手術や薬剤によって治療を行います。つまり直接、外から対象者にアプローチします。これに対してリハビリテーション医学では、対象者に訓練経験を提供して、その体験を通じて対象者の内側で自分と環境世界との関係性に気づきが生まれ、関係性を変えることで自らが変わって行くのです。暖めたり、冷やしたり、揉んだり、動かしたり、圧迫したり、抵抗をかけることで対象者の身体を外から変えようとするのは治療医学的発想であり、限界があります。

リハビリ対象者は病気やケガを負うことで、しばし役割や責任を免除されます。そこで力を抜いて楽にしてみる（ちょうど水に浮くときのように）。そうすると生活や仕事に追われて今まで気付かなかったことが感じられるようになってきます。自分はがんばって環境世界と戦って生きているのではなく、実は環境世界に支えられていることに気付くのです。そうすると環境世界を柔らかく受けとめることができ、身体も自然としなやかに動き出します（さきほどの例えで言えば、水の中でもがいて溺れそうになっていた状態から、自分の身体と水との関係性に気付いて、力を抜いて水に支えられながら静かにゆっくりと泳ぎ出すということでしょうか）。

だから私は患者さんに決して「がんばりましょう」とは言いません。その代わり「無理せず身体をいたわって、身体でよく感じてください」と言います。現場の皆さんには発想を転換することに戸惑いがあるかもしれませんが、本当のリハビリテーションをここで実現できるように、どうか、ご理解ご協力をお願い致します。

## リハビリの充実に向けて ～「365日リハの開始」～ リハビリテーション科部長代理 清 家 康 伸

中村記念病院のリハビリテーション科では入院している患者様を対象として、平成23年9月より休日リハビリをスタートし365日リハビリテーションを行なうことになりました。

これまでは土曜日、祝日はリハビリを実施していたのですが日曜日だけは患者様の休みも必要ではないかという考えから行なっておりませんでした。しかし昨今、365日休みなくリハビリを行うことで、より早く患者様が自宅復帰できるという事が言われはじめ、中村記念病院でも是非行っていこうと検討をいたしております。もちろん高齢者で少し休みが必要な患者様もおられます。また、身体能力が向上し、週末ごとに外泊・外出を行いたいという患者様はそのこと自体がいいリハビリになっているのではと考えております。休むことも非常に大切なことだと思います。そのため基本的には希望している患者様を中心として行うこととなります。

平成23年4月に新たに迎え入れた10名の新入職員も、今日まで先輩たちの指導の下、「知識・技術・人間性の向上」に励み、その環境が整ってきたことから、9月より休日リハビリ（365日リハビリ）をスタートさせることができました。

これからもリハビリテーション科職員一同、患者様・家族様に信頼され、納得していただけるよう今後とも頑張っていきたいと思います。



リハビリ風景

## なごみの里に入職してのご挨拶

医師 南 吉 一



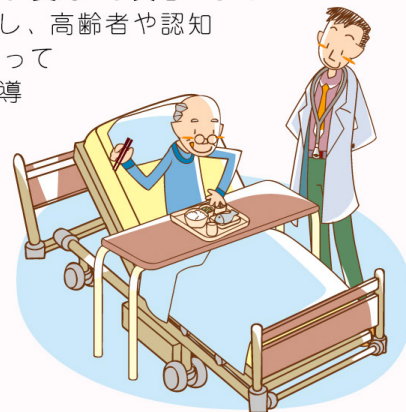
南吉一と申します。昭和33年大阪大学医学部卒です。30年間あまり宮大阪で内科小児科の開業をしました。5年前に脳卒中で身障者4級となりましたが、その後もマイカーを運転して在宅ホスピス、デイホスピスに挑戦しています。訪米ホスピス研修15回。100名以上の医学生を研修に連れて行きました。今も阪大の学生

実習（癒しの技法）のお手伝いを続けています。

本年8月からなごみの里へ嘱託勤務させて頂いております。150名の入居者の健康を守るためお役に立ちたいと願っています。

武村次郎先生（施設長）のセンスと問題解決能力を早く

学びたいと一生懸命になっています。朝礼の言葉「尊厳といたわり込めて 支えあう真心つなぐ なごみの里で」を合唱し、高齢者や認知症者のQOLと向き合っています。いろいろご指導下さい。



## ボランティア雑感

内山 策 郎



何年も前、外国のホテルのプールでのハプニング。プールサイドから飛び込んだ大男がどう云うわけか溺れ、大騒ぎになった。レスキューの資格のある私は、人工呼吸をする覚悟を決めたが、一瞬の逡巡があった。

その時、人垣を掻き分け、妙齡のブロンズの美女が登場。テキパキと見事な応急処置をするのを目の当たりにして、ボランティアの真髄ここにありと感銘した。

わが国と西洋との間には、ボランティア意識に差がある。日本は“おてもやん”にある村役、鳶役、肝煎りどんが面倒を見る地縁、血縁に依存して来た社会であった。

それとは別にバブル崩壊後は時間的な余裕のある高齢者を活用して行政コストを下げると云う、お上の指導も顔を出し、ボランティアに付け焼刃の側面があるように見える。片や、西洋では根底に宗教的精神もあり、学校では以前から必須科目になっていると聞く。

ボランティア（=Volunteer）のVOLは火山のVOLCANOと語源的に同根である云う。間髪を入れず、己むに止まれず反応する行動の謂か。

岡本太郎なら“ボランティアは爆発だ!!”とでも言うのだろうか？

## 高齢者の薬物療法に関する講習会に参加して

看護師 中山 佳津子

厚生労働省が行う「高齢者に対する適切な医療提供に関する研究」に全国老人保健施設協会が協力することになり、なごみの里も協力させていただくことになりました。

内容は「老人保健施設における慎重薬リスト導入の有効性に関する調査」で、研究班の目的は高齢者に対する適切な医療提供の手引きを作成・提言することを目指し、老人保健施設のみならず高齢者の薬剤処方に関する指針作成の重要な基礎資料となります。

この研究会では、昨年度、介護老人保健施設における薬剤提供状況と転倒、精神症状、肺炎等の発生や増悪等を調査されました。そして、入所者が入所時に平均5.1薬剤を服用しており、「効果に疑問のある薬剤」と「問題を起こしやすい薬剤」について87%の医師が薬剤削減を意識しておられ、入所3ヶ月以内に40%近くの症例で、転倒や症状変化が発生していることも分かりました。

処方薬を系統的に見直すことで、このようなことが減らせるのではと期待され、先進諸国では「慎重投与薬リスト」などを用いた取り組みが行われています。

この調査で用いる「慎重投与薬リスト」は米国のBeersリストをもとに日本老年医学会が2005年に作成されたものです。

この調査に協力するにあたり、東京大学病院で調査方法の説明と「高齢者薬物療法のポイント」の講義を受けましたが、その話の中で薬の副作用を薬で治そうとするケースもあり、高齢者の薬物有害作用が増加する要因を考えると、可能な限り処方薬剤の数を最小限にするよう、常に検討することが必要ようです。

今年の夏、電力会社の要請で節電を心がけた結果、余裕で乗り切れた感じがありましたので、薬も見直し続ければ、減らしても大丈夫な高齢者が多くおられるような気がします。



## グループホームたんぽぽ田口オープン

管理者 中島 亜矢子



かねてより建設中の社会福祉法人松樹会 グループホームたんぽぽ田口が平成23年10月1日にオープン致しました。

開設の際には地域の方々をはじめ、各方面の皆様には多大なご支援を頂き、誠に有難うございました。

また、お問い合わせも多数いただき、18名の入居定員も満床になる予定でございます。

ご入居頂きました皆様には、家庭的な環境の中、共同生活や余暇活動を楽しんで頂きながら、その方らしい穏やかで明るい生活を送って頂ける様、職員一丸となって支援して参りたい

と思っております。

両法人で3つ目となるグループホームです。各施設、そのノウハウを活かしながら、微力ではございますが、地域にある施設としての役割を果たしていきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

お近くにお越しの際は、お気軽に施設にお立ち寄り下さいます様、心よりお待ちしております。



## 敬老祝賀会開催

地域交流委員会 委員長 林 憲明/山口 由美

秋空高く、さわやかな毎日が続きますが、この度いこいの里では9月19日に素敵な長寿を重ねられた事をお祝いする敬老祝賀会が開催されました。

今年の祝賀会はいこいの里の最高齢の方への表彰の他、喜寿・傘寿など節目の年齢を迎えられた方に感謝を込めて表彰式を行いました。そして、利用者様による「故郷・里の秋・りんごの唄・青い山脈」の合唱を行いました。合唱は、ユニットごとの唄レクレーションを通して練習を行っていたので、普段には無い美声を披露されていました。他の入居者様と職員も一緒に鈴や手拍子で合唱を盛り上げ、いこいの里には利用者様の美声が響き渡り、職員一同感激致しました。

合唱に参加された中で希望の方にはお化粧をさせて頂いて、

いつもよりおしゃれな服装をして頂きとても喜んでいただきました。

無事に祝賀会を終える事ができ、来年度も利用者様の健康と長寿を願い一層素敵なイベントが企画できるよう取り組んでいきたいと思っております。



いこいの里で100歳を迎えられる長寿のお祝いに竹内枚方市長がお越になられました。9月19日

## 平成23年度 永年勤続表彰並びに、平成22年度 業績団体グループ表彰

平成23年10月6日に平成23年度永年勤続者表彰と平成22年度業績団体グループ表彰を実施致しました。

勤続25年：中村廣久・松田秀子（中村病院）／勤続20年：野間香織（中村病院）

勤続10年：謙隆・明山泰子・山内美香・辻百合子・平井香奈子・西山恵子（中村病院）・伊内康宏（中村記念病院）・佐藤孝子・野田隆次（なごみの里）・片山二美子（たんぽぽ長尾）・岡崎基・竹之内真一・山田達也（松樹会）

合計16名の方を永年勤続者表彰致しました。（敬称略）

また、業績団体グループ表彰は表彰状及び金一封を下記のグループに授与致しました。（記：人事部 廣江）

◆理事長賞（中村病院）

薬学部6年生実務実習受入について

◆社会福祉法人松樹会賞（いこいの里）

介護リーダー会議開催について

◆医療法人みどり会賞（サテライトなごみの里）

安全なフットケアについて

◆特別賞（みどり会・松樹会）

創立30周年記念誌及び季刊誌発刊について

## 各施設連絡先

### 社会福祉法人 松樹会

特別養護老人ホーム いこいの里 072-898-2197

デイサービスセンター いこいの里

グループホーム たんぽぽ田口 072-898-2193

居宅介護支援センター つくしんぼ 072-898-2196

つくしんぼ長尾 072-868-2190

デイサービスセンター 長尾

有償運送事業（福祉タクシー） 072-868-2190

つくしんぼ藤阪 072-868-2191

たんぽぽ藤阪 072-868-2197

鍼灸接骨院 つぐみ 072-836-8280

### 医療法人 みどり会

中村病院 072-868-2071

地域医療相談室 072-868-2070

中村記念病院 072-868-2070

なごみの里 072-868-2072

ケアプランセンター なごみ 072-818-7533

サテライトなごみの里 072-818-2071

デイサービス長尾の里 072-818-2071

たんぽぽ長尾 072-868-2195

訪問看護ステーション 072-868-2071

訪問介護ステーション みどり 072-868-4392

枚方市地域包括支援センター みどり 072-845-2002

みどり保育所 072-850-7550

### —— 編集後記 ——

みどりの風秋号の発刊も、両法人定期発刊物の年報とも重なり何とか発行出来ほっとしているところです。今号は、GHたんぽぽ田口のオープン、中村病院・中村記念病院・なごみの里に3名の医師着任、365日リハビリの導入、敬老祝賀会等の記事を掲載させて頂いておりますので御一読をいただければと思っております。これから錦秋の季節となり心身ともにリフレッシュして業務に努めたいと思っております。

みどりの風発行委員会

連絡先 ☎072-868-2071 法人本部 松田